

令和 8 年 8 月 17 日

富士市教育委員会文化財課

令和 8 年度 国指定史跡浅間古墳発掘調査の中間報告と現地説明会の御案内

～富士山火山噴出物による古墳の被覆などの重大成果～

富士市教育委員会では、国指定史跡「浅間古墳」の適切な保存管理と未来への保存・活用のための基礎資料取得を目的に、令和 8 年度より 5 か年計画での本格的な発掘調査に着手いたしました。

このたび、今年度の調査において、東日本最大級・東海地方最大級（全長約 91 メートル）の前方後方墳である本古墳の歴史的価値を一層高める **3 つの重要な調査成果（中間報告）** が得られましたので、現地にてお知らせいたします。

1. 令和 8 年度 発掘調査の目的と概要

これまでの非破壊調査で得られた知見を実証・補完し、今後の適切な保存管理および未指定エリアの保護管理範囲の確定、史跡整備・活用へ向けた基礎データを取得することを目的としています。

調査期間	令和 8 年 7 月 20 日（月・祝）～ 令和 8 年 9 月 11 日（金）（予定）
調査主体・調査体制	富士市教育委員会（調査指導：富士市史跡保存整備推進委員会浅間古墳発掘調査部会） 筑波大学・明治大学・南山大学で考古学を専攻する大学院生・大学生総勢 12 名が調査に参加
調査目的・内容	・墳丘規模・範囲、遺存状態及び墳丘構築過程の確定（トレンチ掘削調査） ・周溝および古墳造成範囲の確定（未指定エリアの公有化・追加指定に向けた保護範囲の確定） ・活用施設ゾーンの遺構有無の確認
調査面積（予定）	約 560 平米

2. 今回の発掘調査による主な成果(3つのポイント)

成果 1: 埋葬施設付近から採集された土器によって築造年代が「4 世紀中頃(古墳時代前期後葉)」との可能性が高まった

内容:後方部墳頂平坦面(埋葬施設が存在すると推定される周辺エリア)から、かつて、表面を赤く塗った土器「高坏(たかつき)」が採取されており、その製作年代の分析から古墳時代前期後葉(4 世紀中頃)の古墳である可能性が高まりました。

意義:これまで推測にとどまっていた浅間古墳の築造時期が、「4 世紀中頃(古墳時代前期後葉)」である可能性が高まりました。スルガにおける大型前方後方墳の出現時期を明確にする極めて重要な成果です。

成果 2: 静岡県東部の同時期古墳で唯一「葺石(ふきいし)」の存在が確定

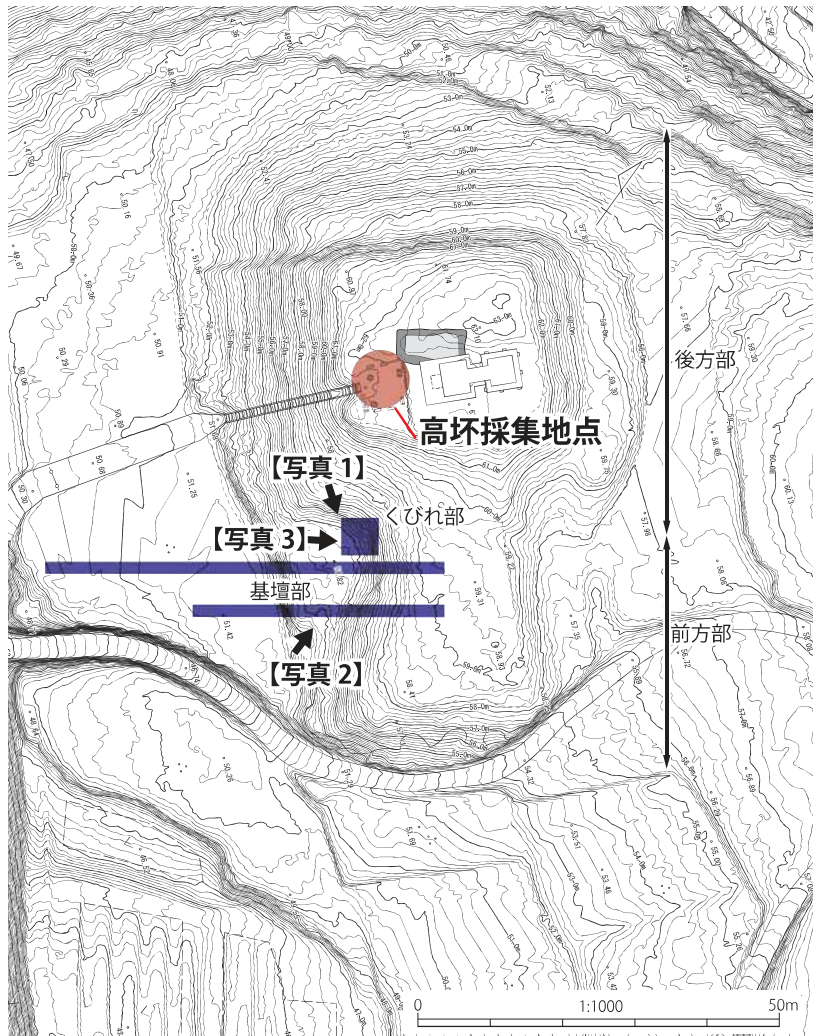
内容:静岡県東部(スルガ)の前期古墳(函南町・瓢箪山古墳、三島市・向山第 16 号墳、沼津市・高尾山古墳など)の中で、浅間古墳が唯一「葺石」を持つ古墳であり、「スルガで最古の葺石を持つ古墳」であることが確定しました。

現状と今後の展望:現在、掘削しているトレンチ調査では、基壇上面部分に崩落した大量の葺石を確認し、その最下部からは土台となる「基底石」とみられる石も検出されています。今後、崩落石を慎重に取り除いていくことで、築造当時の鮮やかな墳丘構造や外観が明らかになることが期待されます。

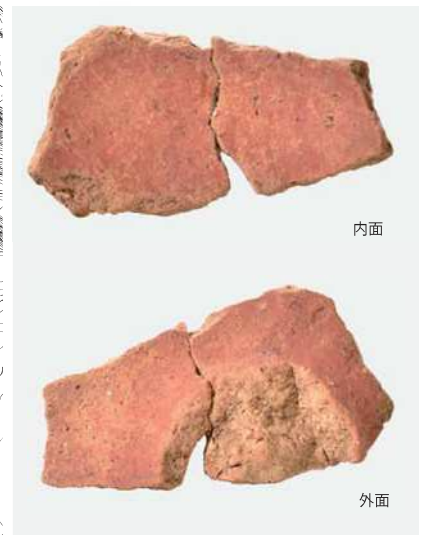
成果 3: 古墳築造後の姿をタイムカプセル化! 富士山噴火によるスコリア被覆を確認

内容:古墳の「くびれ部」周辺において、富士山の側火山活動による火山噴出物「大淵スコリア」が大量に堆積している状況を確認しました。

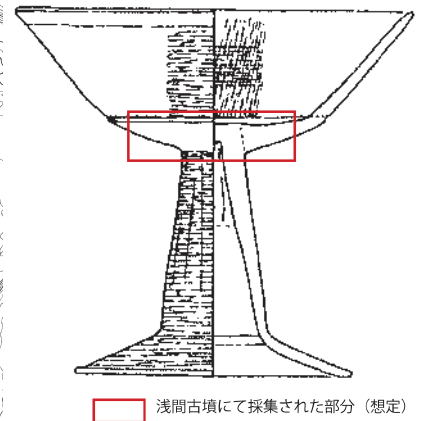
意義:4 世紀後半~7 世紀に降灰したとされる大淵スコリアが、崩落した葺石の上を覆うことで、築造から最大 250 年が経過した古墳の崩落状態がタイムカプセルのように密閉(パック)されている可能性が高く、これは「大型古墳がどのように風化・崩落していったのか」という変遷プロセスを克明に解明できる、全国的にも極めて稀有な学術的成果です。今後、火山地質学・火山学の専門家と協同してスコリアの堆積時期の詳細な検討を進めていく予定です。



【図1】浅間古墳トレンチ配置図・土器採集地点図 (S=1/1,000)



【図2】浅間古墳後方部 採集 高坏



【図3】千葉県 釈迦山古墳出土例 (S=1/3)



【写真1】くびれ部から前方部側面の崩落石の状況



【写真2】前方部側面の崩落石の状況



【写真3】くびれ部において火山噴出物に覆われた崩落石

3. 発掘調査成果の現地説明会（一般向け）のご案内

今回発表いたしました調査成果を広く皆様にご覧いただくため、以下の通り現地説明会を開催いたします。

日時	令和 8 年 8 月 23 日（日）
時間	全 4 回（各回 1 時間・事前申込制・先着各 100 名） A 回：10:00～11:00 / B 回：11:00～12:00 C 回：13:00～14:00 / D 回：15:00～16:00
定員	各回先着 100 名（計 400 名）
申込期間	令和 8 年 8 月 3 日（月）～ 8 月 19 日（水）
申込方法	富士市ウェブサイト（電子申請）等

4. 浅間古墳の概要とこれまでの非破壊調査成果

浅間古墳は、愛鷹山南麓の緩斜面に立地する、東海地方最大級（全長約 91 メートル）の前方後方墳です（昭和 32 年に国史跡指定）。令和元年以降、発掘を伴わない「非破壊調査」を実施しています。

地中レーダー探査の成果（令和元年度実施）：

後方部墳頂（社殿西側）の地下約 2.0～2.5m の位置に、長辺約 9.5m・短辺約 6.8m の範囲で構造物の反応を確認。天井石を持たない「竪穴式石室」または「粘土槨（ねんどかく）」といった埋葬施設が良好に残存している可能性が極めて高いことが判明しました。

ドローン（UAV）空中レーザー測量の成果（令和 2・3 年度実施）：

樹木を透過させた詳細な 3 次元地形データにより、後方部側面にある平坦部（テラス部）の存在を確認。「後方部 2 段・前方部 1 段築成」という精密な墳丘形態が明らかになり、海（南）側から見上げたときにより大きく誇示して見える記念碑的な立地構造が判明しました。

5. 調査協力

本事業には、一般社団法人須津地区まちづくり協議会、富士山吉原ロータリークラブの御協力を得ています。

6. 本件に関する問い合わせ先

富士市教育委員会 文化財課 文化財活用担当（富士市埋蔵文化財調査室） 担当：佐藤・藤村

所在地：〒417-0061 静岡県富士市伝法 79-2

電話番号：0545-22-2095

E-mail: ky-bunkazai@div.city.fuji.shizuoka.jp